

★ 受験激励会のお知らせ ★

今週金曜日から2学期期末考査が始まります。2学期もいよいよ終わりに近づいてきて、考査が終わった後は冬期講習があり、冬休みに突入します。年末年始で気が緩みがちな時期ですが、受験生としては最後の追い込みをかける時期ですね。

さて、特別編成授業の2日目、12月8日(金)4限に、受験激励会を開催します。年が明けて、センター試験や私大の一般入試、国公立大の前期試験、後期試験……と受験が続く高校3年生へ、学校から激励の気持ちを伝える会です。昨年度は、年明けの合同朝礼で行いましたが、今年度は受験前の最も重要な期間である冬休みをどのように過ごすか、ということも含めて、ゆっくり伝えたいと思っています。

参加するのは高校ESコース3学年です。高校1・2年生は、近い将来の自分の姿として高校3年生の様子をよく見ておいてください。1年後、2年後の自分の姿をリアルに思い浮かべて、この冬休みの過ごし方を考える時間にしてほしいと思っています。

高校3年生は、いよいよ差し迫った受験をどう乗り切るか、いっしょに作戦を立てていきましょう。学校として、全力で応援しています。



昨年度の激励会の様子

★ 今村先生のお話 ★

以下は、9月19日の放送朝礼で、今村先生がお話しされた内容です。ES通信へ寄稿してくださいました。

おととい、日曜日の夜には、台風が通り過ぎていきましたね。あちこちの被害を横に置いて言うと、

暴風雨警報が出るのが今朝で、学校が休みにでもなっていたら、生徒のみなさんには「やったー！うれしー！」だったかもしれません。

今週の朝礼のテーマは、「うれしかったこと」です。私の学校での嬉しかったことは、授業に関係することです。私は、授業で「どれが好き？」と聞くのが好きなので、問題集が一冊終わっても、どの問題が好きだったかを聞いています。「次の文章を読んで後の問いに答えなさい」の中に、好きも嫌いもないわ、嫌でもやらなあかんだけやろ、と思うかもしれませんが、聞いてみると意外な出会いをしていることがわかって、うれしいです。

授業に行っている高校2年3組では、5月から家での課題にしていた現代文の問題集が一冊、終わりました。30題の問題のうち、小説から1つ、評論などから1つ、好きだったのを選んで、印象に残った表現を書き写し、感想を書く、というのをこの間、しました。書いた人の名前抜きで、作品名と作者名。感想の部分を幾つか紹介します。

問題番号20 評論『東の音・西の音』武満 徹

「問題を解くのは少し難しかったが、西洋と日本の音楽の違いが分かって、すごくおもしろかった」

問題番号21 評論『「ばらばら」の巻』本田 和子

「子どもは因果関係など気にせずに行動するが、大人は物事を因果関係のあるまとまったものとして捉えないと不安になることが分かった」小説ベスト1だと、心が動いたことがよくわかります。

問題番号6 『時の筏』加藤 幸子

「私も内気で、自分の考えていることをいうのは恥ずかしくて何も言えずにいましたが、この文章を読んで少しでも勇気を出して積極的になってみようと思いました」この人の書き抜いている小説の文章は短いので、ついでに紹介します。「内気さがあらゆる物事の発展をはばむ」です。

問題番号24 『若い詩人の肖像』伊藤 整

「大人びていく同級生についていけず、自分の本当の姿を隠して必死に周りに合わせている姿に共感する。きっと中高生は、こういう子が多いのだろうなと思った」

これらの感想は、名前入りでお互いのを読むようにしてもいいということなので、今日、1時間目の授業で、冊子にしたのを持っていくことにしています。こういうことが、私の嬉しかったことです。

体育祭で縦のつながりを作り、文化祭で横のつながりを強めたみなさんが、この秋、1人ひとりのやるべきことに向き合って、授業の中におもしろいことを見つけて行けるように願っています。